【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立切木小学校

1　前年度 評価結果の概要	・学校教育目標「自ら　気づき　考え　実行する」子どもの育成の実現のために，学力向上や心の教育等において，自己決定の場を設定し，共感的な人間関係を構築する取り組みを実践してきた。ソーシャルスキルトレーニングや授業改善（授業と家庭学習との連動），道徳科の学習を通して，児童の自己理解や他者理解が深まってきた。今後は，縦割り活動を生かしリーダーとフォロワーの関係性を充実させ，活気ある児童の育成を目指していきたい。 ・学力向上評価シートを軸として校内研究や授業改善に取り組んできたことにより，「授業がよく分かる」「個に応じた指導や分かる授業行う努力」に対する回答が児童と保護者共に9割を超え評価が高かった。県学習状況調査では，4，5，6年生の各教科8調査の内，5調査で県平均正答率を上回った。次年度に向けて，課題が見られた算数科も含め，全職員で授業改善に向けての取組を共有し実践していく。 ・コロナ禍ではあったが，地域との交流活動の場をできるだけ設定した。その都度，積極的に広報活動を行い地域に情報発信してきている。今後もコロナ禍における行事の見直しを図りながら，価値ある体験活動を計画し，意見や要望等を踏まえ地域との交流を深めていく。更に「唐津が好き」「切木が好き」「学校が好き」と感じる児童の育成を目指し，学校教育目標を念頭に置いて，学校や学級の取組等を工夫・改善し，地域や保護者から信頼される学校づくりに努める。
2　学校教育目標	テーマ：笑顔はじける切木小学校 学校教育目標　「自ら　気付き　考え　実行する」児童の育成　～「出番，役割，関わり，承認」を通して～
3　本年度の重点目標	３つの重点目標 ①　自ら学ぶ児童の育成　②「思いやり」の心をもつ児童の育成　③　たくましい心と体をもつ児童の育成

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示した個人の成果指標を達成した教師85%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに，校内研修等により取組の促進を図る。			A	・「唐津の学びスタイル」の研修会を開き，唐津市の「学びの文脈」や「4つの感」についての共通理解を図り，学力向上に向けて取り組むことができた。また，県学習状況調査分析会を開き，児童の学習面の課題や今度の取組について話し合い，共通理解することができた学力向上対策シートの個人成果指標を達成した職員が多かった。	A	・学力向上については，県学習状況調査の結果から課題に対する手立てが明確に示してある。是非，学び方を児童に身に付けさせることも大切にしながら，今後も児童の意欲を高めて，学力向上に結び付けてほしい。	・学力向上対策コーディネーター（井上） ・研究主任（霧田）
	○授業規律と学習の進め方の工夫 「わかる・できる・楽しい」授業づくり ○自信をもって伝え合うことのできる児童の育成	○「授業がよく分かる」と回答する児童や保護者90%以上 ○「3つのそろえる」ができる児童80%以上 ○自分の考えや思いが相手に伝わるように表現できる場を設定できた教職員の割合80%以上	・「唐津の学びスタイル」に基づいた授業実施に係る「自己決定・自己存在感・共感的な人間関係」と「基本の3つのそろえる（準備力）」の指導の徹底 ・学習場面や朝の活動，行事等において児童一人一人が発言できる場を設定する。			A	・「授業がよく分かる」と回答した児童は年間平均94．7%であった。また，保護者アンケートの結果は，97．7%で「わかる・できる・楽しい」授業づくりに結び付いていると答える。 ・基本の「3つそろえる」の達成率は年間で94．4%であった。授業に臨むための準備ができるよう全教職員，同じ目標で指導を行うことができた。 ・「自分の考えや思いが相手に伝わるように表現できた」と回答した児童は86．4%で，表現する場を設定できた教職員は100%であった。自分の考えや思いを友達に伝わるようにする取組に成果が見られた。	A	・児童や保護者のアンケート結果から，先生方が分かりやすい授業の工夫（授業改善）に取り組まれていることが分かった。 ・校内研究で，「自分の考えや思いが相手に伝わるように表現できた」という項目で成果が上がっているのはすばらしい。	・学力向上対策コーディネーター（井上） ・研究主任（霧田） ・特活部
●心の教育	●児童生徒が，自他の生命を尊重する心，他者への思いやりや社会性，倫理観や正義感，感動する心など，豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業で，自分の考えを深めたり，友達と話し合ったりする活動をしていると思う」と回答した児童85%以上 ○「温かな心・言葉・行動」ができたと思うと回答した児童85%以上	・人権集会や道徳科や学級活動等で人権意識の高揚を図る。 ・縦割り班活動や体験活動を通した「心の教育」を行う。			A	・人権集会では，認知症について学ぶことを通して，他者への思いやりについて考えることができ，子供たちの人権意識の高揚を図ることができた。 ・「切木小の思い出作りをしよう」の議題で話し合い，決まったことを縦割り班で行ったことで，友達の優しさや自分のよさに気付くことができた。「温かな心，言葉，行動」ができたと思うと回答した児童は年間平均81．8%であった。更に豊かな心を育てる活動が必要である。 ・「道徳の授業で，自分の考えを深めたり，友達と話し合ったりする活動をしていると思う」と回答した児童は93．2%で，目標数値を達成できた。	A	・人権集会で，今年度は認知症について講師による講話が開催されている。いろいろな立場の方について学ぶことは，児童の人権意識を高めるためのよい取組だと思う。 ・児童発案での代表委員会で，記念樹の植樹やみんなで遊ぶ取組を計画し実践されていることは，児童の主体性を育むのに有効であると思う。	・道徳教育推進教師（徳永） ・人権・同和教育担当者（佐志） ・特活部
	●いじめの早期発見，早期対応体制の充実 ○いじめを許さない風土づくり ○明るく元気な「挨拶・返事」を身に付ける	○いじめ防止等（いじめの定義，いじめの防止等のための取組，事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員85%以上 ○「いじめをしない約束」を守れていると回答する児童85%以上 ○「明るく元気な挨拶・返事ができた」と回答する児童85%以上	・月に2回，職員連絡会後に生徒指導に関して共通理解する場を設け，複数の目で児童を観察する体制づくりに努める。 ・学期ごとにいじめに関する学校生活アンケートを実施し，教育相談の時間を設定する。 ・挨拶や返事が上手な児童を全校で紹介し，意識付けを図る。			A	・「いじめのない学校づくりのために組織的な対応ができている」と回答した教員は100%で目標を達成することができた。 ・「いじめをしない約束」を守れていると回答した児童は93．2%で目標を達成することができた。 ・「明るく元気な挨拶・返事ができた」と回答した児童は93．2%で目標を達成することができた。 ・各学期に年間3回の教育相談週間を設け，児童の声に耳傾ける時間を設けることができた。そこで明らかとなった事案をを教職員で共通理解し，いじめの早期発見，早期解決，再発防止に努めることができた。	A	・「あいさつ・返事」については，特に力を入れて対策をしてほしい。挨拶・返事ができる子供は，能動的に行動できるようになり，学習意欲にもつながると思う。全ての児童において指導を徹底することは難しいと思うが，今後の対応策を講じて，「明るく元気な子供の育成」を目指してほしい。	・生徒指導主事（井上） ・生活部
	◎夢や目標に向かい努力しようとする気持ちを育む教育活動の推進	○夢や目標をもっていると回答する児童85%以上 ○マナー検定（卒業検定・修了検定）での合格者90%以上	・地域人材やOB，OGを活用し，「なりたい自分になる」ためのキャリア教育を意識して取り組む。 ・キャリア教育の一つとして，ソーシャルスキルトレーニングを各学年，月に一度行う。 ・マナー検定（卒業検定・修了検定）の実施			A	・「夢や目標をもっている」と回答した児童は，年間平均87．1%で目標を上回った。各学年，キャリアパスポートを活用した学習を行っているが，活用の仕方の研修を行ったり，コロナ禍であったが，もう少し地域人材やOB，OGの活用をすべきであった。 ・SSTやマナー検定を行い，社会性やコミュニケーション力の向上を図ることができた。マナー検定では，合格者100%で目標を達成することができた。	A	・将来の生き方に向けて，キャリア教育の一つとしてソーシャルスキルトレーニングの取組が行われており，素晴らしい実践であると思う。 ・学校でマナー検定（修了検定・卒業検定）を継続して取り組んでいることが成果につながっていると思う。1年生のうちから，はきはき話すことに取り組んでもらっていることは，中学校でも役に立つのでありがたい。	・指導教諭（井上） ・特活部
●健康・体つくり	❶「運動習慣の改善や定着化」 ❷「望ましい生活習慣の形成」	❶授業以外（昼休み等）で，外での運動やスポーツを行う児童85%以上 スポーツチャレンジ前に，練習をしている児童85%以上 ❷「早寝・早起き・朝ごはん」の実施率90%以上	・外遊びの奨励，スポーツチャレンジでの個人目標の設定 ・「早寝・早起き・朝ごはん」カードで意識を高める。			A	・今年度は，なわとび大会を全校で実施できたこともあり，昼休み等にはなわとびの練習をしたり元気に外で遊んだりする姿が見られた。しかし，寒さの影響もあり，体力向上を意識した児童が年間平均85．6%であった。 ・3学期の学校評価アンケート結果で，「早寝・早起き・朝ごはん」はできていると答えた児童は，90．9%で，目標を達成することができた。	A	・持久走大会やなわとび大会等の限られた行事の中で，感染症対策を講じた取組をしてもらっていると思う。可能な範囲で体力向上に取り組んでもらっている。 ・児童も保護者も「早寝・早起き・朝ごはん」や「夜の歯みがき」への意識が高まっていることはよいことであると思う。	・体育主任（永石） ・養護教諭（福島） ・保体部
	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・				・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。月平均45時間を超えない割合87% ●定時退勤日設定時間の達成率87%	・業務の平準化，タスクマネジメントの意識化，内容と提出期日の可視化 ・定時退勤日の確実な実施			A	・定時退勤日については，90%の職員が実施できており，時間外勤務の月平均45時間以内については，100%の職員が45時間を遵守して職務遂行ができたと回答している。タスクマネジメントを意識した業務遂行ができてきたと言える。今後も継続して，業務効率化の推進を図っていく。	A	・教職員は業務多忙で，現状として時間外での業務も増えているという話もある。切木小の先生方には，今後も業務改善を進めていただき，子供たちのために，心身ともに元気で教育活動にあたってほしい。	・管理職
	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・				・		・	

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組			最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）				達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○	○教員の専門性と意識の向上	○特別な配慮を要する児童への理解が向上した教員80%以上	・特別支援に関する研修会の実施（個別対応・支援の在り方・合理的配慮等について） ・校内支援委員会開催による児童理解の浸透			A	・特別支援に関する研修や校内支援研を通して，合理的配慮を要する児童への理解が向上したと回答した教員が100%の結果となり，成果が見られた。	A	・特別支援学級も含め，一人一人を大切にした教育活動を推進されており感謝している。個に応じた支援や合理的配慮等について，今後も継続して取り組んでもらいたい。	・特別支援コーディネーター（霧田）
○	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・				・		・	

●・・・県共通　○・・・学校独自　❺・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学校教育目標の実現のために，学力向上や心の教育の充実，たくましい体づくりの重点目標を掲げて実践を積み重ねてきた。学習や集会等の場面において，自分の思いや考えを発言する場を設定したり，ソーシャルスキルトレーニングに取り組んだりしたことにより共感的な人間関係が育ってきている。また，縦割り活動の充実を図り，異学年での掃除や遊びの場面を意図的に仕組んだことで，児童がお互いに理解し合えるようになってきた。このような実践を通して，「自ら　気付き　考え　実行する」児童の育成に結び付けることができた。今後も，児童同士の関係性の充実を図りながら，学校教育目標の実現に向けた活気ある児童の育成を目指していきたい。 ・「唐津の学びスタイル」を軸として校内研究や授業改善，GIGA端末を活用した授業実践に取り組んできたことにより，「授業がよく分かる」「個に応じた指導や分かる授業を行う努力」に対する回答が児童と保護者共に9割を超え評価が高かった。県学習状況調査では，4，5，6年生の各教科8調査の内，4調査で県平均正答率を上回った。課題が見られた教科・領域については，全職員で授業改善に向けての取組を共有し実践していく。 ・コロナ禍において，可能な限り地域との交流活動の場を設けた。積極的に広報活動を行い，地域にメールやホームページで情報発信してきた。今後も，SWOT分析を通して教育課程や行事等の見直しを図りながら，価値ある体験活動を計画し，意見や要望等を踏まえ地域との交流を深めていく。さらに，学校教育目標を念頭に置き，統合に向けて「切木が好き」と郷土愛をもてる児童の育成を目指して，地域や保護者から信頼される学校づくりに努める。